

## 令和4年度

## 事業報告書

特定非営利活動法人手話教師センター

2019年末に発生した新型コロナウイルスは、私達の生活を大きく変化させた。オンライン一択という状態から、オンライン、対面、ハイブリッド等、さまざまな選択が可能になった。

手話教師センターの会員、サポーターは全国に点在していることから、定例会、日本手話ブラッシュアップ講座、集中研修会、日本手話教育研究大会等はすべてオンラインで行なった。対面で行なったのは、ナチュラルアプローチ手話教授法講座の一部（模擬授業）、ろう通訳養成講座・フィーター養成講座の一部（通訳演習、通訳実習）等であった。

### 1 事業の成果

**【育成】**今年度の定例会はすべてオンラインで行なった。開催数を年6回からコロナ前の4回に減らした。ウェビナーで実施した。（第58回～第61回）△日本手話ブラッシュアップ講座はすべてオンラインで行なった。開催数は年7回から4回に減らした。うち1回は手話言語学の基礎的知識を学ぶ講座として実施した。講師に対しメンターによるフィードバックを実施した。△ナチュラル・アプローチ手話教授法講座を開講した。模擬授業以外はオンラインで実施した。△ステップアップ講座は応募者が少なく、昨年に続き、中止となった。

**【研修】**集中研修会を前期・後期に分け、オンラインで実施した。参加者は前期・後期あわせて77人であった。△第22回日本手話教育研究大会をオンラインで2月に開催した。参加者は292名であった。

（法人会員73名、サポーター＝賛助会員138名、一般81名）△手話教師育成研修会は、年度末の3月にオンラインで実施した。エンパワーメントチーム（アドバンス plus 以上及び理事）23名が参加した。△自主研修会は2年連続の0件であった。

**【派遣】**（株）アウトソーシングビジネスサービスダブルピーとは協力関係にあり、WP手話寺子屋講師はすべて法人に登録している教師が担っている。△企業、民間団体などへの講師派遣、登録手話通訳者研修会への講師派遣等を行なった。△個人レッスンについては、個人1件、大学教員2件である。△通訳派遣を今年度から本格的に開始した。国立民族学博物館で開催された言語展における翻訳、TISLR14への通訳派遣を行なった。（ろう通訳者養成講座及びフィーター養成講座修了生を中心に通訳者を手配した。）

**【開発】**（株）アウトソーシングビジネスサービスダブルピーと契約中のDVDプロジェクトについては、進行中のチームは2つで、DVD発行のための作業を行なっているが、今年度中にDVDを発行することができなかった。なお、DVDプロジェクトは2チームによるDVD発行をもって終了の予定である。△オンラインによる手話学習サイト「サインアイオー」の監修を行なった。

【翻訳】コミュニティ及び学術分野におけるろう通訳者・リーダー養成事業（日本財団助成事業）は本年度で3年目を迎えた。オンライン翻訳講座、通訳理論講座、ろう通訳者養成講座、リーダー養成講座を予定通り開講した。オンラインで対応可能なものはオンラインで実施し、対面にした方がよいものは対面で実施した。△オンライン翻訳講座は、Googleの学習支援ツールであるクラスルームを活用し、12クラス（1クラスにつき翻訳課題6本、講座6回）、すべてオンラインで行なった。△通訳理論講座はすべてオンライン、ろう通訳者養成及びリーダー養成講座については、対面が必要な場面以外はオンラインで行なった。△ろう通訳者養成講座、リーダー養成講座の修了生を中心にした研修会において、医療、法律、コミュニティ、精神保健、翻訳に関する専門研修を行なった。各専門分野につき5回の研修を実施した。自発的な研修会は13回（のべ107名）実施した。△通訳研修（通訳機会の確保）のための特別講演会を1回、実施した。通訳チームは会場に参集し、オンラインで配信する形をとった。△通訳OJTプログラムとして、通訳OJTを12件実施した。△学術分野におけるろう通訳者・リーダーの養成において、「国際手話を学ぼう」（全5回5名）「手話言語学を学ぼう」（全10回8名）、「TISLR14ミニ講座」（25回のべ141名）を実施し、「ゼロから学ぶ英語の読解」は中止となった。△ろう通訳者の資格化にむけ、手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）を受験することを想定した対策講座（学科・実技）を開講した。結果、試験にはろう通訳者が10名出願し7名が学科試験を受験した。うち5名が合格したが、実技試験における合理的配慮は、試験開始合図や説明等の情報保障のみで、手話への通訳試験において音声を変えて文字にする等の配慮は実施しないということだったため、受験を見合わせるようになった。また、受験者から「ろう通訳者の資格化に関する要望書」を試験実施機関である聴力障害者情報文化センターと厚生労働省に提出された。聴力障害者情報文化センターからは「ろう通訳者の資格については厚生労働省に要望書をお届けしたが、その後の取扱については承知してない」という趣旨の回答をもらっているとのことである。

【啓発】ホームページ、Facebook、ツイッター等で広報、啓発を行なった。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【9,336】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
手話教師育成事業	定例会の開催	年4回	オンライン	15名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約950名	273
	日本手話ブラッシュアップ講座等における教師育成	年4回	オンライン	10名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約460名	658
	ナチュラルアプローチ手話教授法講座の教師派遣	1講座	オンライン	3名	手話教師をめざすろう者	10名	503

手話教師 研修事業	集中研修会	前期 後期	オンライン	10名	手話教師	77名	311
	日本手話教育研究大会	年1回 2月	オンライン	15名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約 300名	573
	手話教師育成指導者研 修会	年1回 3月	オンライン	2名	手話教師指導 者	23名	0
	メンター派遣	通年	オンライン	2名	手話教師	30名	146
	手話教師自主研修会	通年	-	-名	手話教師	-名	-
手話教師 派遣事業	手話教師の派遣 手話通訳者の派遣	通年	事務所	2名	市民 手話学習者 手話通訳者	約 3,000 人	12,030
手話教授 法に関する 教材開発 事業	サインアイオーからの 業務委託	通年	事務所	2名	手話学習者等	約 200人	1,314
翻訳・通 訳に関する 事業	手話通訳者の養成（ろう 通訳・フィーダー 等）	6月～12 月	オンライン	4名	ろう者 手話通訳者	116名	11,735 (総額)
	ろう通訳者・フィーダ ーの研修	通年	東京 オンライン	3名		約 約 470名	-
	通訳 OJT プログラム	通年	東京 オンライン	3名	ろうフィ 通訳利用者 市民	600名	-
ろう者特 有の文化 に関する 普及啓 発事業	ホームページ、SNSの 運用	通年	事務所	3名	ろう者、聴者 等、一般市民 正会員・賛助 会員	約 100人	87

(2) その他の事業

(事業費の総費用【           】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)